

平成30年度 学校関係者評価書 (川南町立 川南小学校)

4段階評定 4:期待以上 3:ほぼ期待どおり 2:やや期待を下回る 1:改善を要する

項目	評価指標 及び 具体的目標	自己評価	自己評価結果の考察・分析および改善策等	関係者評価	学校関係者評価委員の意見
Ⅰ 町民 総ぐる みによ る教育 の推進	1 <b>学校や家庭、地域等が一体となって取り組む教育を推進する。</b> ・地域の物的、人的教育資源の有効活用 (各学年:年5回以上) ・家読(うちどく)の奨励 ・保護者との協働による生活リズムの推進	3.5	○参観日の出席率(4月:90%、7月:台風のため中止、9月:87%)【参考:平成29年度4月:87%、9月:86%】 ○毎月、第一火曜日の朝に「子ども見守り隊連絡会」を実施し、気付いたことについて意見交換ができる場を設定している。7月20日の終業式に約40名の協力隊の方にお越しいただき、児童からの感謝の気持ちを伝えた。(7月29日付宮崎日日新聞に記事が掲載) ○家庭読書の充実への働きかけを行った。(教職員の評価:肯定的回答92%)【参考29年度86%】 ○健康生活週間を毎月設定することにより、意識付けが図られている。結果を給食時間に放送することで、児童の励みになっている。週末に近くにつれて、結果がよくなってきた。	3.8	○先生方が早朝より交通安全指導をよく行っている。PTAのあいさつ応援隊の方も活動によく参加している。 ○「子供見守り隊連絡会」で意見交換の場を設けるなど地域と密着した活動力が向える。 ○校長のリーダーシップのもとPTA役員を含め学校全体がよくまとまっている。これは、これまでの積み重ねと改善の成果である。 ○新聞掲載数が多く、すばらしい。地域の方も掲載を喜んでいる。 ●学級懇談会の出席率がもっと高いとよい。
	2 <b>家庭や地域の教育力の向上に努める。</b> ・学級懇談会等の充実(年6回) ・家庭・地域との連携による登校指導やあいさつ指導(PTA登校指導:年3回) ・家庭教育学級の活性化		○学級懇談会の出席率(4月:62%、7月:台風のため中止、9月46%)【参考:平成29年度4月:57%、9月50%】 ○PTAによる登校指導を6月と9月(今週)実施。(1月に実施予定) ○家庭教育学級は、計画的に実施している。夏季休業中に、本校事務職員等による「親子エアロビクス教室」を実施。約20名参加。10月23日(火)に外部講師を招き、人権教育に関して「親子のコミュニケーション」をプログラムに実施した。		
	3 <b>開かれた学校づくりを推進する。</b> ・組織としての学校運営の活性化 ・学校評価を生かした教育課程の改善 ・積極的な情報発信 ・オープンスクールの実施 ・コミュニティ・スクールの検討		○組織的な分掌・学年運営を実施した。(教職員による評価:肯定的回答100%)【参考平成29年度100%】 ○教職員による評価を7月に実施し、その結果をもとに校務部会で話し合った。各部の実効策について課題と改善策を確認し、教育課程実施の改善に努めている。 ※ 児童・保護者へのアンケートは11月に実施。 ○学校だよりを毎月1回発行している。また、ホームページでの情報発信に努め、30年度に入り31の学校行事等の記事を掲載している。 ○学校行事等について新聞社に掲載依頼し、記事として2回取り上げられた。(8月末現在) ○児童の作品を新聞社に積極的に投稿し、21作品が掲載された。(12月末現在)		
Ⅱ 生きる 基盤を 育む教育 の推進	1 <b>確かな学力を育む教育を推進する。</b> ・学力向上を図るための組織的な取組とICT機器の活用 ・基礎的・基本的な内容の確実な定着 ・読書指導の充実	3	○基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るため、各学年・学級で「がってんタイム」を計画的に運用することができた。また、個別指導の充実を図るため、校時程を工夫し、金曜日の昼休み後に「学びの時間」を設定した。30分間の設定であるため、テストの細かな解説ややり直しなど、徹底した学習指導等に活用されている。 ○学期の最終週を「学力向上週間」とし、学習内容の定着を意識し、指導の充実を図る場を設定した。 ○年度当初に、学年ごとに「学力向上パワーアップシート」を作成し、児童の実態を把握し、具体的な対策を立てて実践している。また、夏季休業中に、1学期の指導の指導の成果と課題を検討した。その上で今後の取組(改善策)を作成して、2学期からの指導の視点を明らかにし、見直しをもち、準備を行った。 ○3学期から午前中5時間授業を実施することに伴い、児童が落ち着いて学習に望むことができる環境作りと外国語科の実施に伴う時間確保の目的も、検討委員会(学力向上プロジェクトチーム)を開いた。その中で、挙げられた検討事項について話し合いを重ね、来年度の教育課程の編成に生かしている。 ○学習は「立腰」で始まり、「立腰」で終わることができている。 ●授業中や集会時等で話の聞き方は比較的良好になってきたが、発表力に課題が見られる。発表する機会を意図的に設けたり、意欲付けを図ったりして、表現力を高めていきたい。 ○読書に関しては、学年部ごとの目標冊数(チャレンジ5!)に取り組み、多読賞として表彰することで、意欲付けを図ることができた。校内図書館貸し出し冊数の1学期の全校平均は、5.7冊である。 ●ファミリー読書週間の取組は、家庭によって取り組みに差がある。2学期に読書旬間があるため、その中で読書意欲を高めていきたい。	3.5	○「がってんタイム」「学びの時間」「学力向上週間」を設けたり、「学力向上パワーアップシート」で子供たち一人一人の状況を捉え指導することにより学力向上が図れたのではないかと感じる。 ○ICT機器の活用はととても効果があると思う。 ●ファミリー読書週間の家庭での取組に差が出るのは、やむを得ないのではないかと。 ●発表力を課題としている。児童数の多さなど他校との実態は異なるが、参考にするのもよいと考える。 ○教育相談アンケートの実施やえががお推進委員会の実施等で、子供たちが安心して学校生活を送ることができていると感じる。
	2 <b>豊かな心を育む教育を推進する。</b> ・生徒指導の三機能を生かした教育活動の推進とじめ防止対策 ・教児同行「共汗・協働」の推進 ・人権に配慮した教育の推進・充実		○教育相談アンケートを毎月実施することにより、児童が困っていることを担任等に知らせるよい機会となっている。また、児童からあがってきた困り感に対して、全職員が早急に対応したり、えががお推進委員会などで共有したりするなどしている。そのため、大きな問題は起きていない。現在、不登校0である。 ○問題行動が発生した場合は、迅速に「報告」「連絡」「相談」を関係職員と行い、事案によっては内容を整理し、共通理解を図った。また、問題行動を未然に防ぐために、放送を活用し啓発を行った。 ○JRC委員会が主体となって、高齢者とのふれあい交流会を実施したり、募金活動を行ったりするなどボランティア活動を積極的に行っている。 ○毎朝校舎に向かってあいさつを行うことや、5年生のあいさつ運動、毎週火曜日の「あいさつ運動の日」は定着した。また、PTAの「あいさつ応援隊」の協力も得ている。 ○人権教育研修を年3回実施している。本年度は、7月に「いのちの教育週間」を新たに設定した。全校や各学年で命の尊さについて考える機会とした。また、夏季休業・冬季休業中にLGBT等性的少数者に関する研修を行い、人権問題を直感的に捉える感性や人権への配慮が態度や行動に現れるように研修の充実を図った。		○子供の心の状況を捉えて対処する取組がよくできている。 ○JRC委員会等の活動など、小さい頃からボランティア活動を行うことはとてもよい。 ○担任以外の外部講師の活用など地域人材を活用する取組がよい。特に水泳は、外部講師の活用が記録会でのよい記録に結びつき、子供たちの自信につながっていると考える。 ○体育実技研修で教師自身が学ぶ機会があつてよい。
	3 <b>健やかな体を育む教育を推進する。</b> ・体育科授業の充実 ・保健指導と食に関する指導の充実 ・安全教育的徹底		○教科体育指導の充実(教職員による評価:肯定的回答96%)。水泳指導時には、学級担任以外の教職員も加わって指導を行った。また、水曜日の放課後に外部講師(福寿園施設長:押川英文氏他2名)に協力していただき、水泳記録会に向けた水泳指導を行った。その結果、記録が伸びた児童も見られた。中には、県標準記録や県標準大会新記録に達する児童もいた。 ○新学習指導要領への移行に伴い、「投の運動」について夏季休業中に体育実技研修を行った。児童の体力向上につながる指導方法が身についた。体力向上週間を、2・3学期に計画をしている。宮崎県学校体育研究発表会を本校で実施した。 ○食に関する指導として、ランチルームで給食を食べる機会を意図的に設け、おにぎり作り等の活動を行うことで食への関心を高めることができた。また、遠足時には「弁当の日」を設定して、学年に応じて弁当作りに取り組んでいる。 ●体力テストを実施した。課題は、「上体越し」「立ち幅跳び」である。		○食への感謝として、おにぎり作り、「弁当の日」などを設定し、関心を高めた活動は評価できる。 ●むし歯の治療率の向上への対策が望まれる。 ○特別支援学級4クラスは、毎日、保護者との連絡帳のやりとりをしているため、子供の様子が相互によく伝わると思う。個人面談等も実施しているので個々に応じたきめ細やかな指導ができているのではないかと考える。
4 <b>共生社会を目指す特別支援教育を推進する。</b> ・児童一人一人の教育的ニーズを把握し、その可能性を伸ばすための教育の推進 ・特別支援教育研修の充実	○特別支援学級の児童一人一人のニーズに応じるために、毎日保護者と連絡帳を通して連携を図ることができた。また夏季休業中に保護者との個人面談の機会を設け、1学期にできるようになったことを伝えたり、これから身に付けさせたいことなどを確認したりすることができた。 ○夏季休業中に、特別支援教育研修を行った。「見ること」「聞くこと」について、特別支援教育の視点での研修であった。2学期以降の指導に生かしている。 ○えががお推進委員会を月一回開き、特別に支援を要する児童や生徒指導上配慮が必要な児童等について共通理解を行っている。	3.9			

III 教 自 育 立 の し 推 た 進 社 会 人、 職 業 人 を 育 む	1 <b>ふるさと川南に学び、誇りや愛着を育む教育を推進する。</b> ・ふるさと学習の実施(秋季大運動会での川小音頭) ・町歌斉唱(儀式的行事) 2 <b>キャリア教育を推進する。</b> ・キャリア教育に係る諸活動の実践と年間指導計画の見直し(全学年での体験学習の実施)	4 ○運動会での川南音頭(川小音頭)の発表に向けて、夏季休業中に実技研修を実施した。運動会当日は保存会の方々の生の演奏や歌に合わせて踊り、保護者や地域の方々も加わるなど、盛大に川南音頭が繰り広げられた。 ○入学式で町歌を斉唱したり、毎週火・木曜の始業前に町歌を放送で流したりしている。また、運動会に向けて家庭の協力を得て、町歌を身につけ、当日は運動場に大きな声で歌う児童の姿が多数見られた。 ○キャリア教育週間(6月4日～8日)を設定し、地域の職業人の講話を全学年で実施した。(6月8日付宮崎日日新聞に掲載) ・1年:学級活動「もりもりげんき」講師:町共同調理場所長 石井 美貴様、学校栄養教諭 田中 佳子 ・2年:生活科「おいしい野さいをそだてよう」講師:JA尾鈴ピーマン部会 網代 宗章様、JA尾鈴 角田 正樹様 ・3年:社会科「市の様子」講師:川南湿原を守る会 松浦勝次郎 様 ・4年:総合的な学習の時間「福祉って何だろう」講師:福寿園施設長 押川 英文様、大山 博美様 ・5年:総合的な学習の時間「川南町の産業について調べよう」講師:都甲健二様、柳川勝司様 ・6年:総合的な学習の時間「川南の宝を見つけよう」講師:川南町商工会会長 宮崎 吉敏様 ※11月18日(日)のふれあい参観日に、複数のブースで職業講話「よのなか教室」を実施(6年生対象)。農業(網代宗章様、角田正樹様)、畜産業(河野康洋様、野郎穰治様)、水産業(木浦元博様、西口政治様)商業(黒木栄治様)、飲食業(梅木香代子様)、福祉施設(押川英文様、大山博美様)公務員(河野賢二様)、保育士(河野邦子様)、消防士(小城英士様)、警察官(横山千紘様)、工場(香川憲一様)の11業種15名の方が講師として参加。	4.0 ○ 運動会で川南音頭が定着している。 ○ 入学式や運動会など行事の中で町歌がよく歌われている。 ○ 1年生から6年生まで講師をよんで職業講話を聞くなどキャリア教育への取組がすばらしい。 ○ ふるさと川南を学ぶ教育であるキャリア教育への取組は模範的である。
IV 環 魅 境 力 の あ 整 る 備 教、 育 を 支 え る 体 制 や	1 <b>教職員の資質向上に努める。</b> ・授業研究を核とした校内外の研修、OJTの推進 ・学年部での授業の構築(1人1授業、相互参観授業の実施) ・服務規律の徹底(年3回以上のコンプライアンス研修) 2 <b>学校における安全、安心の確保に努める。</b> ・安全教育の徹底	3 ○「全国学テ」(6年)や「みやざき学テ」の問題を全職員で採点したり、分析を行ったりし、児童の実態を把握することができた。また、本校の課題を共有し、その対策を考えた。 ○夏季休業中にキャリアデザインに関する研修を実施し、講義・演習形式でキャリアプランについて考えることができた。 ○コンプライアンス研修では、外部講師を招き、運転技術やヒヤリハットの現場の模擬体験など実技を交えた研修を行った。 ○1人1授業、相互参観授業を2学期に実施している。 ○風水害に関する避難訓練を実施し、DVD等を活用した指導を行ったあと、集団下校を実施した。 ○夏季休業中に、高鍋警察署のスクールサポーター(桂俊氏)を外務講師として招き、不審者対策の職員研修を実施した。また、10月18日に不審者対応の避難訓練を実施し、対応の仕方に関する改善点について話し合った。 ○防災教育研修を夏季休業中に防災士を招いて実施した。校区内の地図を用いて、危険箇所を項別に整理した。(8月1日付宮崎日日新聞に掲載)	3.0 ○ 「全国学テ」「みやざき学テ」などの採点を全職員で行うことは、児童一人一人の実態を把握するのに有効である。また、その後の対策も充実している。 ○ コンプライアンスに関する研修が充実している。 ○ 教児同行、共汗・協働の精神が大切である。また、先生方が仕事にやり甲斐をもち、やる気を高めながら仕事に励む先生方の育成が大切である。